



**お元気ですか！**  
**志村 たかよし です**

**第824号** 2017年1月29日

**日本共産党中央区議団**

中央区 築地 1-1-1  
電 話 3 5 4 6-5 5 6 3  
F A X 3 5 4 6-9 5 7 0

## 急増する「違法民泊」 保健所が許可した「民泊」は 現在ゼロ



違法民泊でよく見かけるカギ入れ=湊

気になったらご連絡を

### 国は規制緩和で民泊推進

「隣が民泊しているようなんですが…」など民泊に関する苦情・相談が寄せられるようになり、保健所と協力して調査をしています。

「民泊」とは、

「自宅の一部や空き別荘、マンションの空室などを活用して宿泊サービスの提供をするもの」

と、厚生労働省の資料に書いてあります。

自宅であっても、宿泊料をとって宿泊させる営業を行う場合は、保健所による「旅館業の許可」が必要となるのです。

国は、昨年4月に「観光立国の推進」と「空き家・空き部屋の有効活用」の観点から、規制を緩和して、民泊がしやすいようにしました。

たとえば、「フロントの設置」は、これまで「必要」としていましたが、「設けることが望ましい」と緩和してしまいました。

### 中央区は規制緩和せず

中央区は「フロント」について、引き続き「必置を要件」としており、これまでどおりの許可事務を行っています。

保健所に確認したところ、現在まで、中央区保健所が許可した「民泊」は一軒もないということです。

ですから、現在、民泊を行っていそうな所は、「違法民泊」の疑いがあることになります。

### 何かあったら警察に通報を

「夜遅くまでうるさい」「知らない外国人とエレベーターが一緒になって不安」など民泊に関わる苦情やトラブルについて、保健所は「騒がしかったり、ゴミ出しなどで問題だと思ったら、直接その人に声をかけるのではなく、交番や警察に連絡してください」とアドバイスしています。

気になることがあれば、私（志村）か保健所（3541-5936）にご連絡ください。

これから東京五輪に向けて外国からのお客様が増えることが予想されます。

「違法民泊」は、環境面でも衛生面でも問題をおこしやすいため、周辺住民のみならず、日本を訪れた外国の方にとっても無責任な施設です。

中央区には、マンスリーマンションなどで長期滞在する外国人も多くいらつしやいます。

外国の方たちには、日本で快適に過ごして欲しいものです。

# 豊洲新市場 また欠陥

## 止水シート敷かず盛り土

6000億円余を投じて東京都が整備してきた豊洲新市場予定地（江東区、東京ガス工場跡地、約40畝）で、いまだ地下水や空気から基準を超える有害物質が相次いで検出されています。原因の徹底検証が求められる中、都の土壌汚染対策工事の新たな欠陥が17日、本紙の取材で明らかになりました。

（岡部裕三）

### 本紙に認める

860億円投じたが  
専門家によると、土壌汚染対策工事では、汚染物質を封じ込めるために、地中に土木（止水）シートを敷いて、その上に盛り土な

## 汚染対策理解せず設計？



豊洲新市場・水産卸売場棟予定地の工事現場＝東京都江東区、2014年10月14日、共産党都議団撮影



豊洲新市場・水産卸売場棟地下の汚染水排水現場＝東京都江東区、2016年12月13日、東京都提供

どを行うのが通常だといえます。豊洲の工事現場の写真などをもとに本紙が取材したところ、都中央卸売市場は土壌汚染対策工事の際に、砕石層（厚さ約50センチ）の上に土木シートを敷いていなかったことを認めました。

中央卸売市場はシートを敷かない理由について、「（汚染）土を入れ替える対策を講じているし、地下水をきれいな水に入れ替えているので、汚染物質は除去されている」からだと説明しました。

関係企業に問い合わせたところ、40畝に土木シートを敷く場合、工事費は数十億円程度と試算しています。都は汚染対策工事に860億円を投じたにもかかわらず、汚染土壌が広域的に残されていることが、市民団体

「意見、要望など、お気軽に」連絡ください（03-6360-9900）に

や日本共産党都議団の指摘で判明。地下水や地下空間の空気から基準を超える有害物質のベンゼン、ヒ素、水銀が検出されている原因は、都の対策の欠陥による疑いが濃厚です。

### 3項目の検証を

また野村氏は、土壌汚染対策の柱である地下水管理システムを10月に本格稼働したにもかかわらず水位低下の効果が薄い問題などについて、3項目を検証するよう提案。具体的には、①40畝もの広い市場用地で、揚水井戸が58本というのは少なすぎる②防潮護岸の止水壁（3層構造遮水壁）工事が不十分で、海水が市場用地の地下に浸水している疑いがある③安全性を確認するためには、再度地質ボーリング調査を行う、汚染土壌のサンプリングの採取と盛り土の土質を調べる一ことで

野村氏は「土壌汚染対策では通常、汚染地地下水の上昇を止めるために砕石層を敷き、その上に土木シートを敷いて粘土層を一定の厚みで盛り、その上に盛り土をします。シートを敷かないで工事をすれば、工事車両や建機の重量で上から押さえて、盛り土と砕石が混じってしまう。設計者が、工事の目的を理解していなかったのではないかと、疑問を投げかけた。また野村氏は、土壌汚染対策の柱である地下水管理システムを10月に本格稼働したにもかかわらず水位低下の効果が薄い問題などについて、3項目を検証するよう提案。具体的には、①40畝もの広い市場用地で、揚水井戸が58本というのは少なすぎる②防潮護岸の止水壁（3層構造遮水壁）工事が不十分で、海水が市場用地の地下に浸水している疑いがある③安全性を確認するためには、再度地質ボーリング調査を行う、汚染土壌のサンプリングの採取と盛り土の土質を調べる一ことで

野村氏は「土壌汚染対策では通常、汚染地地下水の上昇を止めるために砕石層を敷き、その上に土木シートを敷いて粘土層を一定の厚みで盛り、その上に盛り土をします。シートを敷かないで工事をすれば、工事車両や建機の重量で上から押さえて、盛り土と砕石が混じってしまう。設計者が、工事の目的を理解していなかったのではないかと、疑問を投げかけた。また野村氏は、土壌汚染対策の柱である地下水管理システムを10月に本格稼働したにもかかわらず水位低下の効果が薄い問題などについて、3項目を検証するよう提案。具体的には、①40畝もの広い市場用地で、揚水井戸が58本というのは少なすぎる②防潮護岸の止水壁（3層構造遮水壁）工事が不十分で、海水が市場用地の地下に浸水している疑いがある③安全性を確認するためには、再度地質ボーリング調査を行う、汚染土壌のサンプリングの採取と盛り土の土質を調べる一ことで